



# どこにいても安心して医療が受けられるために 多言語対応デジタル問診票の実証実験

Ambii合同会社

世界の  
あしたが見えるまち。  
TSUKUBA

## 背景・目的

訪日外国人の増加、人材不足などの影響で外国人労働者の増加がこれからさらに進みます。そして、自分がいつ病気になるかなんてわからないので準備をしていません。  
外国人側は自分で病院に行くことができない、医療システムがわからない、調べても次から次へと難題がやってきます。  
医療機関側は、外国人が来院した時に、言語、文化の違いによるミスコミュニケーション、対応の仕方、日本人患者よりも時間がかかるなどの問題があります。これら双方の問題を解決します。



## 実験内容

### 本実験で使用した3つのシステム



1. 医師検索 2. 医療コンシェルジュ 3. デジタル問診票

### ■本実証実験の主旨

外国人がスムーズに日本の医療を受けられるよう、Ambiiが提供する3つのシステムを使い、クリニックを探すことからクリニックを出るまでのフローを支援及びクリニック側の外国人患者受け入れを支援する以下の内容の実証実験を行いました。

- ①外国人患者がAmbiiサイトで医師を検索し、多言語対応が可能な医師を容易に見つけることができる。
- ②医療コンシェルジュにより、医療に関する質問を受け、さらにスマートフォンで問診を行いその内容を事前にクリニックに伝えることで外国人患者の来院理由が事前に分かる。
- ③事前に問診を済ませてない場合、外国人患者がクリニックに来院した際にAmbii問診票を使ってもらい診断に必要な情報を診察前に収集しやすくする。

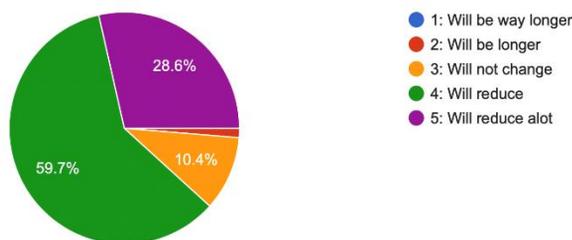
実証実験を行った3つのクリニック。(2月21日～3月10日)  
坂根Mクリニック (循環器内科)  
ヒルトップクリニック (小児科)  
宮川医院 (胃腸内科)

## 実験結果

- ✓ 1人の問診業務に20分かかるところを3分で完了することが可能となった。
- ✓ 事前に来院理由がわかることで安心して準備ができた。

約85%の外国人利用者が時間短縮を実感。

Do you think this will reduce the time you spend for clinical visits?  
77件の回答



外国人患者のみならず業務フローの改善にも貢献することできる。

多言語対応デジタル問診票が有効であると実証。  
また、遠隔で医療通訳を使えるとより良いことがわかった。

## 今後の展望

2020

- ・自治体との提携
- ・デジタル問診票の改善及び使用用途の多様化
- ・実証実験機関を増やす

つくばSociety5.0  
トライアル実験

2021

- ・デジタル問診票拡大 (全国+台湾,タイ,ベトナム,UAE)
- ・予約システム開始
- ・遠隔医療通訳と連携

2022

アジアで使えるプラットフォームにする

自分で医師検索、問診票で症状を伝えて、遠隔医療通訳で診察を受け薬を受け取る一連の流れをアジアのどこにいてもできるようにする。